

令和 7 年度第 2 回府中市デジタル田園都市国家構想総合戦略会議 会議録

日 時：令和 7 年 7 月 8 日（火） 10：00～11：00

場 所：府中市役所 4 階 第一委員会室

会議要録	
次第	1. 開会 ○市長挨拶 2. 報告事項 ○前回の議論を踏まえた次期総合戦略の方向性の再提案 3. 協議事項 ○次期総合戦略の方向性に対する意見 など 4. 閉会 ○議長とりまとめ ○副市長挨拶
開会	
○市長挨拶	みなさまこんにちは。本日も暑い中、会議にご出席いただきまして誠にありがとうございます。 さて、この会議では現在府中市が掲げている第 2 期府中市総合戦略について、今年度末で計画期間が満期を迎えることから次期総合戦略の策定に向けてどういった方向に進んでいくべきかご議論をいただいたところでございます。 その中で、委員の皆様からいただいた次の総合戦略でどこに向かうべきか、デジタルを生かした地方創生とは何か、という点を明確にすべきというご意見について、改めて市の構想をご説明する機会が必要であると考え、本日この場を設けさせていただきました。 今日の委員会で、府中市の人口減少が避けられない中で市が向かうべき方向性を改めてご提案し、委員の皆様からの御意見をいただきながら、総合戦略の方向性について目線を揃えたいと考えております。 本日は自由闊達な意見が飛び交う会議になることを願い、私からのあいさつとさせていただきます。今日はどうぞよろしく願いいたします。
報告事項	第 2 期府中市総合戦略の振り返りと次期総合戦略策定に向けた検討状況
事務局	（説明は省略）

協議事項 次期総合戦略の方向性に対する意見 など	
委員①	先日、府中市内の事業者による空き家の貸し出しがニュースで取り上げられているのを見ましたが、ただの賃貸ではなく、長期間借りた場合にはそのまま持ち家にできるという取組だったかと思います。空き家の多い地域であり、子育てしたい、自然と近いところで住みたい、という層をターゲットにして、空き家をどんどん貸し出せるような制度が活発化すると、そこに住んでくれた方が府中市に愛着を持つようになるのではないのでしょうか。
議長	非常に良い切り口だと思います。
委員②	若者・女性が活躍できるまちを目指すということですが、活躍しながら子育てもしていくということになります。私は日々、働きながら子育てをされているご家族を見ておりますが、やはり子供の病気で仕事を休まなければならない場面が度々あります。そういう時、事業所だけに休みを取りやすくする努力を強いるのではなく、市の戦略の中にサポート体制をつくってもよいのではないのでしょうか。 子育て世代には子供を産み育ててほしいということと、労働力として府中市を支えてほしいという両方を期待していますので、行政も事業者の子育て対応をサポートすることが大切だと思います。その時に「子どもファースト」を忘れず、子どもにとって何が大切であるかを常に考えてもらえると嬉しいです。
議長	いこーれのなかにもちゅちゅという子育て拠点があったと思いますが、どちらかという平常時の支援という側面があり、緊急時の際にも子育てしやすいという点も大事なかなと思います。
委員③	移住促進の観点からお話しさせていただくと、次期総合戦略では関西圏までをメインターゲットにする、ということが書いてありますが、例えば先日私が参加した有楽町の移住フェアにしても多くの方が参加されていましたが、東京圏からの移住という目標に対して県と連携しているがゆえにそういった市場に訴求できているというのが実情だと思います。なので、ターゲットが関西圏に移ってしまうと府中市単体での取組になってしまい、数百万円規模の多額の予算が必要になってくるのではないのでしょうか。 なので、関西圏をターゲットにするのはどこと連携して進めていくのか、こういったPRを打ち出すかなど慎重に考えていくべきだと思います。 また、移住・定住というテーマは分けて考えられた方が良いと思います。近隣は流出防止という意味での定住だと思いますが、一緒にしてし

	まうと福山からとってくるという発想にしかないと思います。遠くに行って府中市のことをアピールして移住者を募るということも市にいない人材を獲得するという意味では重要だと思います。
議長	移住・定住はすごく重要なテーマだと思います。市が独自でやるにはコストがかかりすぎるので、県との連携などをうまく使ってやっていくのが良いのではないかと思います。
委員④	職業訓練にもう少し力を入れるべきだと思います。いこーれも空きスペースがありますし、ちゅちゅがあるからこそここでスキルアップをしてデジタルとのつながりを生み出すということも考えられます。 再就職の方への支援もありますし、在職者の訓練ということもあります。在宅でもできるような WEB 関連の管理などもできると思いますし、システムがらみのこともできると思います。離職者、在職者の訓練ができる場を作り出すことが重要なのではないのでしょうか。 実際、府中市でも職業訓練を受けることはあると思うんですが、現状は福山で受講して府中に戻ってくるという少し不思議な状況になっていると思います。地元で職業訓練を行う場ができれば地元の企業が見に行つて、これも受けてきて、みたいなこともできるようになると思いますので、重要ではないでしょうか。
委員⑤	マクロの分析と併せてミクロの分析も行っていただくよう引き続きお願いしたいと思います。 また、前回の会議で議長から地域のストックの活用という話があったかと思いますが。市の強みというところをしっかりと把握することが重要だと思いますし、それを市の取組とマッチさせることが重要だと思います。可能かどうかというところもありますが、転入された方や市に残る選択をされた方の意見が見えてくると、その中に市の強みが見えてくるのではないかと思います。
議長	事務局からも前回の消滅可能性自治体というネガティブな考え方からポジティブな方に向きなおしたという話がありましたが、もちろん課題を克服するという戦略も大事だと思いますが強みを伸ばすという考え方も重要だと思います。
委員⑥	女性・若者が活躍できるまちが目指す姿になっているが、これだけをパッと見るとそれ以外の人たちはどうなるのか、それがすみよいまちにつながるのか、という疑問があります。焦点を絞れば最終的にはここにたどり着くのかかもしれませんが、それ以外の人たちも含めて住みやすい街というのがダイバーシティなので誤解のない表現にするのが良いのではないかと思います。

	また、このまちがどう活性化していくのかを考えると、一つはある程度コンパクトシティという要素は入ってくると思います。ただ、取引先との話では工業用の土地が限られているという課題も出てくるので、市内の地域の用途の見直しも含めた形でのコンパクトシティの実現が含まれるとよいのではないかと、また公共交通の課題も重要だと思いますので入れていってもよいのかなと思います。
委員⑦	若者の就職・結婚のタイミングに併せて転出が増えているという中で、周囲の干渉から離れたい、核家族という形で同居を望まないという方もいるので、子どもが病気になっても近くに頼れる親がいない、というような課題が浮き上がってくるのではないかと思いますので、そういった点に対してどう解決するのか、が課題になってくると思います。 駅周辺を含めて住みやすく居心地の良い住環境の構築とありますが、子育てしやすい環境という意味では、保育、小中学校までの道のり、交通量、治安、周辺に遊ばせられる室内遊戯、公園・図書館などがあるか、などがポイントであると調査に上がっていますが、そもそも府中駅周辺を住みやすい環境に作り替えるのか、というのも大きな課題なのではないかと思います。宅地はそこそこあると思いますが、住宅の密集と周辺に遊ばせる施設がある、過ごしやすい地域であるという二つが両立できるのかというのと、なぜ駅周辺にフォーカスを当てているのかという点に違和感があります。 ベッドタウンとして栄えている地域もありますし、アクセスしやすい、外に出て移動しやすい、というところも整理が必要だと考えるとハードルが高いところではないかと思います。 また、図書館の横になる崩れかかった家屋がありますが、そばを通るたびに不安になるという意見もあり、住んで気持ちが良いというところは重要だと思いますし、危険を感じるような空き家は解体して新しい人が住める環境迅速に整えるということも重要だと思います。
議長	居心地がよいという具体例を列挙していただきましたが、そうすると大都市がいいよねという結論になってしまうので、新市じゃなくて駅家じゃなくて府中に住む居心地のよさって何だろうということを考える必要があると思っていて、それが強みとつながってくると思いますので、それがいろいろ考えていく上でのヒントになるのかなと思いました。
委員⑧	2点です。一つはデジタルに関してですが、民間がやっていることに対して行政のサポートがあればそれはそれでありがたい話かなと思いますが、行政を取り巻く環境が厳しい中であって行政DXをすすめて生産性を高めコストを下げる、そのためにトップとしていろんな情報が共有

	できて行政効率を高めるということに取り組むのが府中の課題にまっすぐに向いたテーマではないかと思います。 もうひとつ、女性・若者が活躍できるまちは福山に任せてもよいのではないのでしょうか。生活圏の中で話をしなくてはならないので、府中という区切られたエリアで完結する話ではないと思います。広域で生活することの利便性を高め、その中にある府中という位置づけでよいのではないかと思います。府中はお年寄りも多く、その方々にとって居心地の良いまちということの方が圧倒的にリアリティがあると思います。 免許を返さないといけないということがあるとお年寄りが行きたいところに行けないということになってしまう。そういう中でどういうまちをつくればお年寄りがいつまでも元気で過ごしていけるか、という姿を描くことこそが地方の町がやるべきことであって、女性や若者を呼び込めるまちにするというのはいささか非現実的ではないかと思います。その要素も重要ですが、そこだけに焦点を当ててしまうとお年寄りにとって苦しいまちになってしまう、お年寄りがいつまでも元気で過ごせる街こそが本当によいまちではないかと思います。
議長	生活圏という言葉が出てきましたが、分析データを見て最初に思ったのが出たり入ったりが多いんだなということでした。それがなんでなのかを考えたときに、おそらく居住地を選択するときに、車を使えばどこにでも行けるし、通勤も車があればあまり苦にはならないというところで、たまたま駅家にいい物件があったとかそういう理由なのかなと思いました。そういう意味では、府中地区、府中市だけで考えていくとミスリードになるのかなと思います。国では地域生活圏を支援する方向に向かっているので、そうした実情に合ったところに加えて、府中地区と上下地区をどういう関係性に持っていくのかということも考えていくことがあるのかなと思います。 福塩線でつながっているので、一気通貫でつなげるようにするとか動きやすくしてあげることが重要だと思います。そういう取組を通じて府中っていいところじゃんと思ってもらえれば住んでもらえるようにもなりますので、人口を維持するということも大事だと思うんですが、どうやったら来てもらえるようになるかを考えると居心地や住みやすさという話になっていくと思います。府中の居心地とか住みやすさを考えるときに、府中の強みをどういう形で生かすことができるか、屋内公園やコミュニティスクール盛んですので、そういう意味では強みはたくさんあると思います。そういった強みを生かしながら流動を増やすという方向性が最終的に活躍できるまちにつながっていくと思いますし、そういった

	つながりを大事にする必要があるんじゃないかなと皆さんの話を聞いて思いました。
委員⑦	結婚を機に篠根に住んでいた時期があり、その後家を建てようという話をしたときにまず府中市から探しましたが、桜が丘の場合は2000万円を軽く超えるということで断念し、市内を探しましたが土地や道が狭い、中心地に近づくにつれて坪単価が18万くらいになるということで、近田の方で探してみると坪単価が12万円くらいで勤務地に3、40分程度で行けますし商業施設などがそろっていたので、通勤も可能ということで福山に決定した経緯があります。そういう意味では府中で探すときに条件にあうところが少ないのかなと思います。
委員①	昨年岡山駅でイベントをしたときに学生の方から声をかけていただいたのですが、その方が毎日上下から岡山の大学まで通ってらっしゃるということで、なぜ岡山に下宿先を借りてないのか聞いてみたのですが、実家で祖父と住まわられていて、畑を手伝うこともあるとか、通勤時間よりも上下の心の豊かさを大事にしてとどまってくれている方もいました。山に住んでいる方はその土地が好きで住んでいるという方も多いと思います。 オオムラサキのイベントにも参加しましたが、まちの人が見たらそんなところに住んでいるのか、と驚かれるような場所でもプライドを持って生態系の保護に取り組みながら暮らしている人はいます。こういった取組はおおくの人にとってあこがれる、素敵だ、と思ってもらえるものだと思います。欧州ではバケーション期間を田舎で過ごすやり方があるのですが、その地域の方との関係を築く、田舎で暮らすという遊び方が当たり前になっている地域もありますので、高齢者の近くに若い方がふれあいにくようなシステムがあると利便性の課題が克服されるようになり、魅力の一つにもなるのではないのでしょうか。
委員⑧	いいまちって何なのかを考えたときに、若者が楽しめるのがいい町っていうのかというと、人生の最後を迎えるお年寄りが幸せなまちがいいまちの究極じゃないかなと個人的には思います。 現状、人口問題も相まって若い世代を増やすというところに行政は力を入れており、高齢者の早期免許返納を勧奨されている状況で、それって本当にいいまちなのかなと思う次第です。最後の最後に幸せだったといえるのが総じていい人生だといえるでしょうし、そこを何らかの形でサポートできるのが素晴らしいまちなのではないかと思います。
委員②	子育てというのは若い夫婦だけの営みではなく、すべての年代の方の生活に関係していますので、そういう観点で“子育て”をとらえていただき

	たいです。府中でなら安心して子育てができる、自分たちも親も安心して最後の時まで暮らしていける、という見通しを持つことができれば素晴らしいと思います。私も親が高齢になり府中市でどう過ごしていくのかを考えています。生活そのものが不便になりできないことが増えておりますので、便利なまちなかに大きなコミュニティがあり、車などの移動手段がなくても楽に集える環境があると素敵ではないかと思います。
閉会	
○議長 とりまとめ	方向性としては事務局が出したようにポジティブに考えていくということで、そこは皆さんの思いもそうだと思いますし、そのポジティブな方向ってなんだろうというところで皆さまからのご意見があったと思います。 おそらく目指す将来像で活躍できるまちっていうのは間違いないと思いますが、頭に何をつけるかというのが問題だと思っており、今、女性・若者が、という言葉になっていますが、もしかしたら主体を目指す将来像に書かない方が良いのかなということも思いました。 関係人口ではなく活躍人口という言葉は別の会議体で提唱しようと思っ て取り組んでいるのですが、魅力向上、賑わい創出とありますが、府中 ならでは、というところを真摯に考えていく必要があると思います。モ ノづくりの町ではありますが物を作らなくても人が集まってにぎわいを 生まれると思いますし、府中市は賑わいの生まれる場所の拠点だと思う ので、どう人を引き寄せるのか、安心したくらし、田舎で暮らすという ところかもしれませんし、それが府中の魅力として出てくるのかなと思 いました。 大きな方向性はよいと思いますので、細かいところはチューニングして いただくということかなと思います。
○副市長挨拶	熱心にご議論いただきましてありがとうございました。生活圏とは何 か、福山と一緒に考える、DX もまずは行政にコストをかける、それか らよいまちとはなにかという大切な課題があると思います。究極はこれ だと思いますし、人生をトータルで考えたときにどこに住みたいかとい うところを描けると思います。 最近のトピックスで行くとウェルネスセンター、私毎日通っております が、高齢の方が楽しそうにマシンを使いながら会話しているところを見 ると職員としてうれしく思いますし、行ったら誰かに会えるという場が できたのではないかと思います。 本日、様々な角度からご意見をいただきベースとなる考え方ができまし たので、これを活かして今後、戦略の柱についての議論にご協力とご意

	見をいただきたいと思いますので引き続きよろしくお願いします。
--	--------------------------------

当日ご欠席の委員のみなさまからの意見（五十音順）

委員⑨	● 行政の DX が進んでいるのか、遅れているのか、という点は比較・実感しづらいところだと思う。 ● 人が少なくなる中でどうしあわせを感じてもらうか、という視点は重要だと思う。特に交通面の充実が重要だと思うが、どの自治体も費用対効果に頭を悩ませながら進めている状況だと思う。 ● 便利さだけが魅力ではなく地域コミュニティも魅力になると思う。コミュニティを充実させて、転入者に終の棲家としてイメージしてもらおう戦略もあるのでは。
委員⑩	● 高齢者だけ、若者だけ、ではなく若い世代と高齢者が共存できることが大事。府中市はそれができるといのが強みだと思うので、ここはもっと踏み込んでよいのでは。 ● 若い世代が府中市を考える契機は「教育」なので、市の先進的な教育施策、教育現場をもっと広報やがっこうだよりなどで PR すればよいと思う。コミュニティスクールなどの取組を通じて世代間交流やまちぐるみの教育にもつながっている。 ● 外から若い世代を呼び込むためには医療と福祉の充実が必要。親族からも緊急時に福山まで出ないといけないという話が出たことがある。
委員⑪	● これからは行政単体ではなく地域が連携することが重要。 ● 残ってもらうではなく、帰ってくるを目指し、幼少期から郷土愛を育むことも住み良いまちだと認識されるためには重要。 ● 市民だけでなく、事業者の転出も課題。市の公共工事を担当している土木系の事業者が転出した場合、広域災害からの復興を受けてくれる企業がいなくなり、対応の遅れが出てしまう事態につながるのではないか。 ● 次期総合戦略のタイトルが「まち・ひと・しごと創生総合戦略」と比べて固い印象を受けるため、再考すべきでは。
委員⑫	● 女性や若者にターゲットが向いているのはどの自治体も同じ。その中でも、高齢者についてどう考えていくかを示したほうが良い。

	● 三世代同居は個人的には打ち手として外れていないと思う。ニーズがあったのであればうまく活用ができなかったのが残念。 ● 市に住んでいる人が「府中はいいところ」と満足してもらうことに重点を置き、そのうえで市民自らが声を上げてもらうことが理想ではないか。
--	--